平成２９年度　政務活動費　先進都市調査報告書

会派名	市政協同
議員名	我妻静夫・古澤孝市・徳中嗣史・岡田健一・早川昇三・南川達彦・黒光ひさ ・鈴木和彦
調査実施年月日	平成29年11月15日
調査先　自治体名等	島根県出雲市
調査項目	島根県立古代出雲歴史博物館について
調査目的	立地状況と展示状況について
報告内容 実施したこと	1　視察先（市町村）の概要 人口：　174，868人（うち外国人：3，267人） 64，344世帯（うち外国人：2，141世帯）（H29．6．30現在） 行政面積：624．36k㎡ 2　視察内容 （1）概要 2007年3月10日に出雲大社の東隣に開館し、主に出雲大社を中心とした古代出雲についての展示を行っており、荒神谷遺跡より出土した国宝を含む銅剣358本、銅矛16本、銅鐸6個、加茂岩倉遺跡より出土した国宝の銅鐸39個、すべて国宝、テーマ別展示室全点が公開されている。展示室は大きく4室に分かれ、一つ目はテーマ別展示室常設展として、出雲大社と神々の国のまつり、出雲国風土記の世界、青銅器と金色の大刀、二つ目は総合展示室常設展として島根の人々の生活と交流、三つ目は神話回廊常設展として神話シアター、神話展示、神話探検、四つ目は特別展示室となっている。特別展示室は期間を決めて多彩な企画展を開催する展示室で、現在は島根の仏像が展示されていた。その他、空中歩廊、展望テラス、ミュージアムショップ、ミュージアムカフェ、情報交流室、講義室がある。 （2）建物 コンセプトとして建築の主張を抑えるために面と線を簡素に表し、素材も鉄とガラスというシンプルな組合せとなっている。また、壁面の鋼は古代のたたら製鉄、ガラスは現代性をそれぞれ象徴する役割も担い、古代と現代の融合という意味合いもある。また、元々の敷地は駐車場と湿原であったため、庭園の樹木にはシイやカシなど常緑の広葉樹が植えられている。これら敷地に広がる庭は「風土記の庭」と呼ばれ、かつて出雲大社の高さが48mもあったといわれる時代の出雲平野をイメージしている。建物は鉄筋コンクリート構造、一部鉄骨造で地上3階地下1階、敷地面積57,000㎡、建築面積9，444．5㎡、延床面積11，854．8㎡となっている。
感想（まとめ） 本市へ生かせること 等	出雲大社内から発見された古代出雲大社の巨大な宇豆柱や、荒神谷遺跡、加茂岩倉史跡から発掘された銅剣や銅鐸といった実物と、古代出雲大社の巨大境内の模型や復元したものなど、充実した展示物であった。また、石見銀山丁銀レプリカを実際に触って大きさや重さが実感できることや、たたら製鉄のふいごに乗って踏んでみることができることなど、見るだけではなく、いろいろな体

	験（体感）ができる工夫がされていた。写真撮影についてはフラッシュを使用しなければほぼ撮影が認められていたことは驚きであった。 　運営については、委託業者が運営しているとのことであったが、丁寧な説明、接客がされていると感じた。 　立地状況としては、有名な出雲大社の隣接されているが、敷地がお互いに広いことで、近い間隔にならなかった。しかし観光客など地方から訪れる方へ博物館で歴史を学び、出雲大社に参拝するといったコンセプトを感じた。 　また、学ぶという観点では、古代から近代までの展示内容で歴史に恵まれた地域の資源を活かしたすばらしい博物館という印象であった。 　県立ということではあるが、今後の本市公共施設においても、バリアフリー化や展示の方法等参考にしていきたいと感じた。